

2024 年
2月発行

第30号 宝同協だより

め ぼ 芽 生 え



編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL:0797-77-2040/FAX:0797-71-1891

2023 年度 ハーとん じんけん作品賞 入賞者のお知らせ

【ポスターの部】

○最優秀賞(3点)



吉原 世之介さん(宝塚小 3年)



高谷 譲さん(良元小 6年)



細川 里菜さん(長尾中 1年)

○優 秀 賞(6点)

植村 美月さん(すみれガ丘小 3年)・鳴海 すみれさん(西谷小 3年)・内堀 仁香さん(すみれガ丘小 4年)
木下 歓奈さん(安倉北小 6年)・山田 千咲紀さん(宝梅中 2年)・池田 柚南さん(長尾中 3年)

【標語の部】

○最優秀賞(4点)

松井 航生さん(雲雀丘学園小 3年)	『 見ないふり ししないでこえを かけようよ 』
榊井 瑞希さん(宝塚小 4年)	『 あの子には わたしと違う 良さがある 』
大河原 奏流さん(光ガ丘中 1年)	『 大丈夫 否定しないで 自分色 』
室屋 江奈さん(市民)	『 ありのまま 私でいられる 世の中に 』

○優 秀 賞(8点)

上林 慶司さん(逆瀬台小 3年)・関 いろはさん(山手台小 3年)
富永 愛菜さん(丸橋小 5年)・有家 小侑さん(美座小 6年)・久保田 一輝さん(山手台中 2年)
仲村 拓真さん(山手台中 2年)・今北 眞奈美さん(市民)・新本 香苗さん(市民)

【作文の部】

○最優秀賞(4点)

秋山 拓利さん(西山小 3年)	『 ウクライナとロシアの戦争 』
戸梶 晴翔さん(すみれガ丘小 4年)	『 男女とは 』
中畠 来秋さん(宝梅中 1年)	『 みんなちがってみんないい 』
匿名 (市内高等学校)	『 多様性のあるべき姿 』

○優 秀 賞(8点)

黒田 哲平さん(末成小 3年)・中西 晟さん(宝塚第一小 3年)・神谷 葵さん(逆瀬台小 6年)
松田 悠弥さん(美座小 4年)・吉田 瑞彩さん(高司中 1年)・河野 琴海さん(宝塚第一中 3年)
中川 陸聡さん(雲雀丘学園高校 1年)・栗田 妃菜さん(雲雀丘学園高校 1年)

【写真の部】

○最優秀賞(1点)



舘原 藍さん(丸橋小 5年) 『 心の道 明日の道 ふみだそう 』

○優 秀 賞(2点)

土佐 幸太郎さん(御殿山中 3年)・坂下 滯士さん(長尾中 3年)

※ 最優秀賞・優秀賞受賞者のみを掲載しています。
※ 佳作を含めた全受賞者名やポスター、写真、
標語の受賞作品は、宝同協のホームページにて
ご覧いただけます。





2023年度 ハーどん じんけん作品賞[作文の部]入賞作品の紹介

【最優秀作文】

ウクライナとロシアの戦争

宝塚市立西山小学校三年

あきやま
秋山 拓利 ひろとし

ウクライナとロシアの戦争がはじまったのは二〇二二年二月二十四日でした。ぼくが一年生の時です。その時は、ニュースで毎日のようにばくだんでたて物や道路、公園がこげきされて、こわされている様子がほう道されていていました。けれど最近ではニュースの中でウクライナとロシアの戦争についてとりあげられる時間が短くなっているように思います。戦争はまだ終わっていないのになぜとりあげられる時間が短くなっているのか不思議に思いました。日本は平和だからまだまだくるしい思いをしている人がいるのにわすれてしまっているように思えます。ぼくも戦争のニュースよりも野球のニュースの結果のほうが気になってしまいます。だけど戦争で家族や友だちをなくしたウクライナの人たちにとっては、この一年半は悲しい気持ちをわすれることは一日もなかったと思います。

ぼくは、友だちと遊んだり、勉強したり、たまにけんかしたりすることができるとウクライナの子どもたちは、今もロシアからのこげきからにげながら勉強していることを知り、少しだけ戦争のことをわすれていた自分はずかしく思えました。

ぼくも、ウクライナの子たちも同じ人間なのに、ぼくのようにしあわせではないのが悲しいと思いました。みんながしあわせになるためには戦争がなくなればいいと思います。戦争がなくなるためにはどうすればいいのか考えてみました。ぼくは友だちとけんかしたとき、友だちと意見が合わなかった時、友だちのよいところを見つけてみとめるようにしています。そうするとムカムカしていた気持ちがなくなるのです。だからぼくだんを使うのではなく、相手の国のよいところを見つけて、つたえあうことができれば戦争はなくなるのではないかと思います。ロシアとウクライナの戦争が一日でも早く終わって、ウクライナの子どもたちが学校に行けるようになってほしいです。

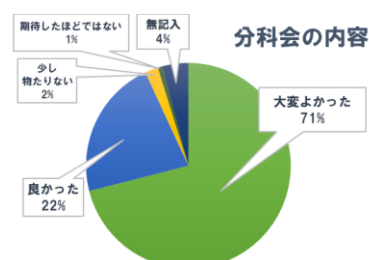
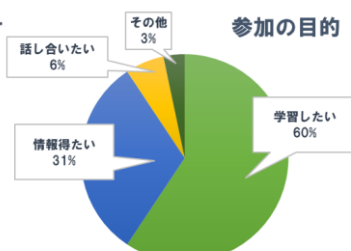
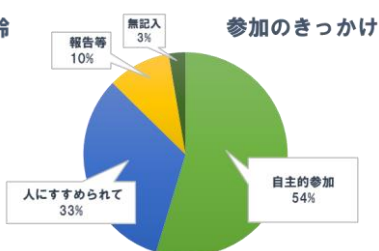
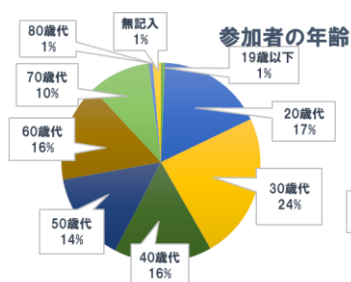
第13回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」

1月20日(土)に開催された研究大会には、210名の参加がありました。全体会のオープニングでは、今年度で閉園する小浜幼稚園、西山幼稚園の子どもたちによる演奏や合唱が行われました。その後7つの分科会に分かれて交流会が行われました。分科会は、報告者の実体験や実践を聞き、参加者による意見交流が行われる形式です。当事者の生の声を聴くことができる場とあって、家族のことで同じような思いをもつ方から質問が出たり、参加者自身も経験談を語ったりすることで、とても充実した会となりました。以下に、参加者アンケートの回答の一部を紹介します。〈アンケート回答者：150名〉

【石櫃】



小浜幼稚園(上)と
西山幼稚園(下)による演奏



「人権交流学びのつどい」分科会の紹介(参加者の感想文より)

【石櫃】

①「いじめ」を乗り越えて 現役高校生が小・中学校で受けた「いじめ」の経験と当時の思いを語られました。



親として考えさせられた。心が痛くなったし前向きに考えさせられることもあり勉強になった。ご本人の経験をもとにした話には力がある。こうした本人、実体験の話をこれからも聞きたい。

いじめを受けた時に子ども自身がどうしてほしいのか、しっかりと気持ちを聞き、受け止めてから対応を行っていく必要性をすごく感じた。自分を大切にしてくれる存在の大きさを改めて考えることができた。

②部落差別について考えよう 結婚差別を受けたことを機に解放運動に参加された経験を語られました。



私は部落差別の実態を詳しく知るのは初めてで「なんて理不尽な」と思う話ばかりでした。本当のことを知って自分の心の弱いところを育て、子どもに「差別はいけない」という私自身の姿を見せていきたい。

部落差別の話をよく耳にしてきたが、まわりが教員ばかりだと本音で話することがしにくいこともあったため、今回のように自分の生い立ちを隠さずに話せる会だと深く学べることができた。

③障がいのある人たちと共に 障がいのある姉がいる報告者が、子どもの頃に感じていたことと教師になってからの思いを語られました。



参加しようと思ったきっかけが娘の障害について向き合っていきたいなという思いがありました。共感できることや報告者の本音を聞かせていただくことで、たくさんを知ることができました。感謝します。

家族としての思いや苦しく感じた経験を大勢の前で話されるのはすごく勇気がいることだと思います。私は今日の話を聞いて、教員の立場だけでは見えない部分がたくさんあるのだと気付きました。

④外国人の人権を考えよう 中国出身の報告者が、子育てを通して感じる3つの壁について語られました。



寛容があることでみんなが通いやすい学校になると話をされていて、それこそ、ウェルビーイングがあれば、みんなが楽しく、みんなが生活しやすい学校になるのだなと思いました。

お話、聞いて良かったです。心のかべをつくっているのは、私たち、まわりのマジョリティの方だと思います。まずは出会って「人」として繋がるのが日本社会のかべをこわすことに繋がると思います。

⑤不登校経験から未来へ 現役高校生が不登校から前に進もうと思えた体験、今の将来の夢を語られました。



「…あるべき」とらわれない、「放っておく」ではなく「信じているから任せる」、「生きていてくれて良かった」という話がとても印象に残りました。「私は私らしく」とおしゃっていたことがすてきでした。

分科会の交流では同じ立場の教師が多く、自分が抱えている思いは自分だけではないことがわかって少し安心しました。学校に行こうと思ったきっかけって本当に大きいなと思いました。

⑥さまざまな性について考えよう 報告者が自らの性自認やパートナーとの出会いや思いを語られました。



人生の中で誰と出会うかがすごく大切だ。「この人なら大丈夫かな」「この人なら言えるかな」と思える場を作っていきたい。言いたくないことは言わなくてもいいけど、隠さないといけいない環境はなくしていきたい。

話が自分の子どもと重なった。LGBTQ+本人の思いとそれを周りで見ると異なることを改めて感じた。当事者が一番しんどいことを理解し、手を差し伸べる環境があればいい、そうなってほしいと思った。

⑦持続可能な人権教育をめざして 学校現場における人権教育の実践と課題について語られました。



部落問題や人権学習について学習内容や子どもたちの実態について話し合い、考えを深める機会ができて人権意識や考えを見つめることができました。対話形式で分科会が開かれてよかったです。

子どもの人権感覚を育てるためには、大人の人権感覚を育てなければならない。人権学習と子どもたちの行動をつなげるには大人が意識を高くしてその都度つけていく必要がある。深く話せる貴重な時間でした。

連載 夢と希望はどこに？ ②6卒園するあなたへ♪

かたつむりさん、かたつむりさん、
 つのだし、^め目をだし、ゆっくり、
 のっそり、^{ある}歩いて^い行けたね。

こ^{とり}鳥さん、こ^{とり}鳥さん、
 ぴ～、ぴ～、^{げんき}元気に、^{こえ}声かけて、
 みんなで輪になり、^{あそ}遊べたね。

あさがおさん、あさがおさん、
^め芽をだし、^はつるだし、^は葉をだして、
^{あか}赤、^{あお}青、^{むらさき}紫 さかせたね。

ひまわりさん、ひまわりさん、
^{だい}大すきな^{あつ}暑い^{なつ}夏、お^ひ日さまにむかって、
^{おお}大きな^{えが}笑顔、ならべたね。

しろくも^{しろくも}白雲さん、くろくも^{くろくも}黒雲さん、
 いつも、空^{そら}いっぱい、いろいろな^{もの}乗り物、
^{どうぶつ}動物、^{つく}作ってくれたね。

お^{ほし}星さん、お^{つき}月さん、
^{くら}暗くてこわい^{よる}夜、いっぱい^{ひか}光って、
^{わたし}私の^あ明かりになってたね。

おも^{おも}い出さん、おも^{おも}い出さん、
^{せんせい}先生、^{とも}友だち、^{えほん}絵本にいます、
^{こやま}小山も^{かだん}花壇も、みんな^{げんき}元気だね。

さようなら、さようなら！
 また^あ会える^ひ日まで、その^ひ日まで。 【和久】



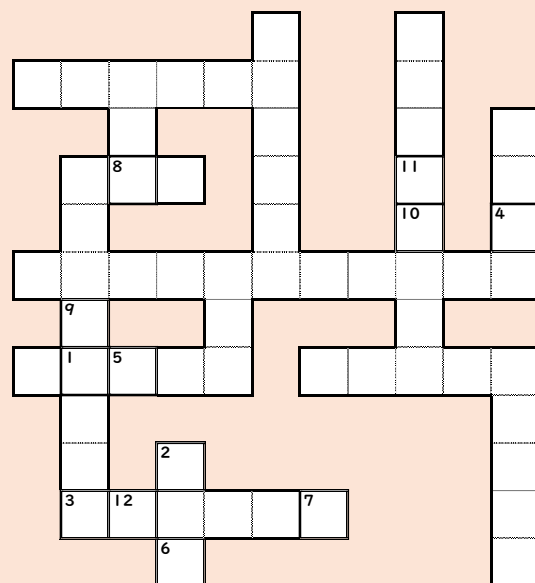
街角風景

お、こわ～【和久】

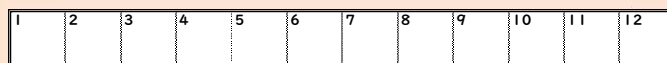
✿ 編集後記 ✿

今年もたくさんの温かい作品と出会えました。学びのつどいでも新たな気づきや出会いがありました。私たちが届ける『芽生え』も皆さんにとって様々な事への『出会い』となれば嬉しいと思います。【平松】

芽生えパズル



【石櫃】



たて・よこのマス目に下の文字をうまくあてはめます。
 太いマス目に入った文字を並べ替えてある言葉にします。
 （答えは下にあります。）

- 3字 めぐみ・あいぬ・あらい・はかい
 4字 へんけん
 5字 よきであい・ふとうこう・うとろちく
 6字 のとはんとう・あうていんぐ・つなぐてとて
 8字 さべつかいしょう・あくいなきさべつ
 11字 まいくろあぐれっしょん

宝同協50周年記念式典のお知らせ

日時：2024年5月16日(木) 14時50分

場所：ソリオホール (総会終了後開催)

プログラム

記念演奏 和太鼓集団 『熱光』

記念講演 元宝塚市長 中川 智子さん
 “たった一度の人生だから”

宝同協だより「芽生え」編集委員

管 理香・平松 友紀・津国 千恵子・川辺 ナミ
 近藤 久展・中村 有希・池澤 径子・和久 有彦
 伴 康史・石櫃 孝啓・谷川 昌也・壽・美除 浩
 登日綱 勢津子